

# THE KOBECOCO 3

MARCH 1982 No.251 月刊 神戸っ子

神戸っ子 昭和40年1月20日 第三種郵便物認可  
昭和57年3月1日印刷 通巻251号  
昭和57年3月1日発行 毎月1回1日発行



Christian Dior sports



 BENIYA

LADIES SHOP  
**Beniya**  
the ladies fashion of the four seasons. creative beniya

エルベ店＝神戸市中央区三宮町1丁目 センタープラザ1F ☎078(332)2829 KOBE・OSAKA・TOKYO



BENIYA BRILLIANT MODE

きら  
煌めくフェアプレイング

宝石を磨くように、あなたも  
スポーツしてシェイプアップしませんか  
スポーツの機能性はもちろん  
レジャーのファッション性をプラスした  
クチュール感覚のディオールスポーツ  
おしゃれな街着として楽しめるよう  
アクセサリーも多彩にラインアップしました  
あなたのフェアプレイング  
それこそ美しく煌めかささずにはおか  
ない  
＜ベニヤ＞スポーティコレクションの展開です。



# ***Designed by Tasaki***

人はいくたびか言葉を越えた美しさに出会う。

田崎真珠

Brooch  
South sea Pearls, Ruby, Diamonds  
Yellow gold and White gold  
Designer Eriko Ishizaka

お問い合わせ、カタログのご希望は、〒100東京都千代田区永田町2-4-3田崎真珠販売企画室(03)580-4688まで、ご郵券・お電話番号を附記してご請求ください。 (株) あなたの真珠はパールマークの店で



心のゆとりを忘れない女性に

Françoise Desarbres

Sanohe

ヌーベル サノヘ  
元町1番街/(078)321-1710

本店

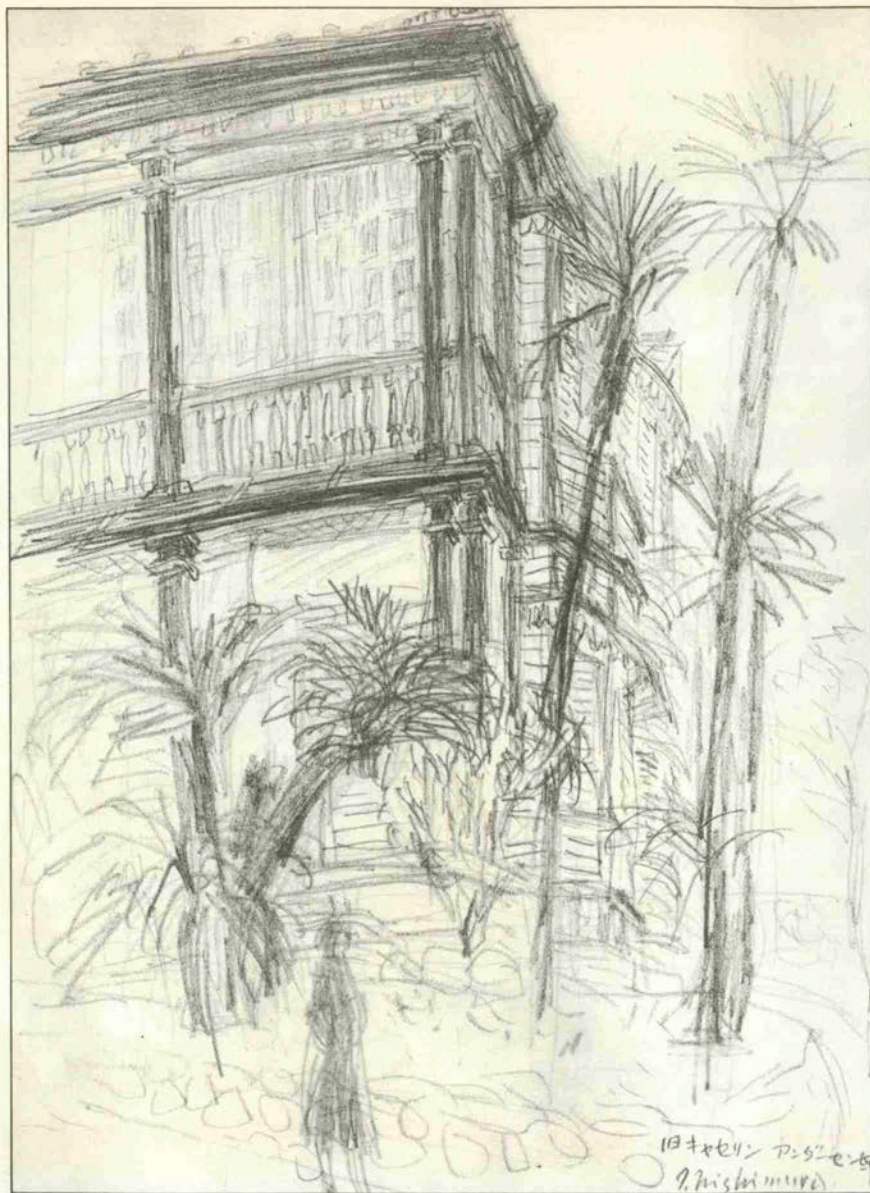
元町2丁目/(078)331-4707  
クレージュ プティック  
トアロード/(078)331-1952



ワンピース ¥130,000

スケッチブックから

● 僕の見た神戸  
〈39〉旧キャセリン アンダーセン邸



絵・西村 功



# KOBE PORTOPIA HOTEL



フレンチレストラン アラン・シャベル (31F)



懐石・すきやき 招福楼 (1F)



メインラウンジ大輪田

〒650 神戸市中央区港島中町6丁目

TEL (078) 302-1111

●550の客室●19の大小宴会場・結婚式場●10のレストランバー・ショッピングアーケード●メンバーズクラブ●500台収容の駐車場



## 〈神戸ポートピアホテルショッピングアーケード〉

## パレピア

1F		2F	
ファミリア	ベビー用品、子供服	そごうパレロアイアル	舶来衣料雑貨
京都祇園・香島屋	旅行カバン・高級カバン	メルボ	紳士服・雑貨
SONY ショップ	電気製品	クロス	パリープ ティップク
ティンカーベル	ドレスエプロン・洋品雑貨	KYOTO ストリー	ニュークファッション
タニジ	金・銀アクセサリー	ブティックをこう	ニナリツチ・
SEIKO ストア	時計	ブティック大丸	ピノランチエツティ
スポーツギヤラリー	スポーツ用品	田崎真珠	ジバンシイ・デイオール
アシックス	スニーカー	大沢スポーツショップ	真珠・宝石
ベガ・ポートピア	タオル・タオル製品	ワールドインテリア	ゴルフ・テニス用品・
日比谷花壇	花	ロイヤルみどり	スポーツウェア
レノマクチュール	婦人服飾	東京銀座・米倉	和洋家具・インテリア用品
ナショナル ショップ	電器製品		美容サロン
今昔	創作陶器		理容室
クラフト ショップ	民芸品		
モリモト	結納用品・和紙民芸品		
ひらた	美術画廊		
三越ギヤラリー	ドラッグストア		
サンポート			

ファミリアは神戸に6つの直営店と 市内の有名百貨店(大丸・そごう等)の  
 中にも コーナーがあります!

株式会社 **ファミリア** 本社  
 神戸市中央区西町36 ☎(078)321-0345代



異人館の街・北野町2 ☎(078)222-3535

TEA ROOM & LITTLE SHOP

ファミリア

**北野坂ハウス**

小鳥がさえずる 緑  
 の中の小さなお店  
 神戸らしい手作りの  
 小物や レディースの  
 商品も揃っています  
 又 アーリー・アメ  
 リカン風のハウスで  
 は 美しい庭を眺め  
 ながら ティータイ  
 ムのひとときを お  
 すごし下さい



元町1番街 ☎(078)321-2468

ファミリア

**神戸本店(元町)**

自然光を1階から3  
 階まで 大きくとり  
 入れた 明るいたの  
 しい店! ベビー用品  
 からジュニアまで  
 オールサイズを取揃  
 え 3階の「おもち  
 ゃの国」は お子様  
 方の夢がいっぱい!

**センター街支店**

トアロード・センター街角  
 ☎(078)391-5555

**さんちか支店**

さんちか ファミリータウン  
 ☎(078)391-2228

**ポートピア店**

神戸ポートピアホテル 1階  
 バレビアンカ ☎(078)302-1567

**ニューメイツファミリア**

阪急三宮駅東口 ヒズ&ハースショップ  
 ☎(078)331-1555

春霞たなびき、  
紅き星の光、  
天界を舞う



*Tajima*  
宝飾店 **タジマ**

元町2丁目 TEL 331-5761代表



●'82ブルーメール賞

音楽部門受賞者

## 花開く「ルミ」の音楽

伊藤

ルミ（ピアニスト）

カメラ  
米田

定蔵

昨年12月、6才から25年間師事した東貞一氏の追悼リサイタルを開いた。師は「幅広い知性をもった個性豊かなピアニストを育てたい」という方針をもって彼女を指導した。18才でデビューリサイタルを開き、以後、朝比奈隆、外山雄三、手塚幸紀らの指揮による大阪フィルとの協演、リサイタルなどの活躍を重ねてきた。本人も話す。「25才くらいまでは順調なベース。限界を感じることもなかった」と。しかし、一人歩きを始めた時期となり「自信喪失」も「救われるのはコンサート前の猛練習の時だけ」という、スランプというよりも過渡期の時代——ひとつの道を歩けば必ず通らなくてはならない過渡期にも、彼女の必死の演奏活動は活発だった。

中堅的なピアニストに成長した彼女、昨年、結婚した。自ら「感覚人間」と称する彼女、師の死と結婚、この現実がピアニストとして過渡期にある彼女に、生活の変化を余儀なくさせた。しかし、その転換の時期に開いた恩師を追悼するリサイタルは、過去の総決算としての意味をもたせ、今回の受賞が新しい気持ちでの第一歩を踏み出させた。

幅広い知性をもった個性豊かなピアニストとして「伊藤ルミの音楽」が花開いていく。

（灘区自宅にて）



# 今、神戸が見えてきた

季村

敏夫

（詩人）

田村

康

季村敏夫は山道を歩くのが好きだ。高取山頂（長田区）へ殆んど毎朝登り始めて三年。六甲全山縦走完走三回の経験も持つ。第二詩集『わが標べなき北方に』は七八年から八〇年の作品を集めて昨年、神戸の蜘蛛出版社から出版された。それに先立つ四年間は作品なし。仕事に忙殺されてのことだが、その時期に詩作を断念したこともあったと言う。第二詩集の作品には神戸に対する愛憎が入り混っています。好きだけど嫌い、嫌いだけど好きというね……。葛藤があり、揺れがあった。これが今、不満なんです。そこには神戸を肯定したくとも出来ないもどかしさがあった。それがこの四月に出版予定の第三詩集『つむぎ唄 泳げ』（砂子屋書房刊）では、その葛藤を払拭して、神戸が好きだとの心情が素直に出て来る。『山から海へと坂道によって町が傾斜している。何とというか町が全身で青空に向っている感じがする。そういうところが好きなんです』自分にとって神戸とは何か？それが一つの心象風景として展開される。長田高校から同志社大学へと進んだが、高校時代の担任の岡本忍さんとの出会いが季村敏夫を詩人への道へと導いたと彼は懐旧する。その後の幾人かの詩人との邂逅が彼を大きく育てた。期待される新人だ。垂水区在住。33歳。

（高取山にて）





# 平面に知性と情感を表象

木下佳通代

画家

カメラ  
米田定蔵

昨年12月13日から今年1月15日までの一カ月間、西ドイツハイデルベルク市美術館で個展をした。今回の受賞は22年間にわたるレベルの高い作家活動とその作品が評価されて海外招聘されたという事実が高く買われてのことだ。彼女の作品は表面に現われるエッジのきいたシャープさと内に込められた服よかさがある。神戸の御影や須磨に古くから住んでいるオバアサンで楚々とした中に思わずはっとする美しさをもっている人がいるでしょう。実に彼女の作品をわかりやすく言えばそんな感じですね。これはいかにも神戸的な作品だとも言えます」と評価される様に豊かな謎を含んだ作品を描く人だ。

海外での作家、美術館等々、日本とは考え方も社会の構造も違うのでどちらが正しいとは言えないが特に現代美術部門で盛んな活動があるドイツでの二カ月間は非常な刺激となったようだ。「今、私がしようとしている面をできるだけ同一レベルにする」という展開に力をいれたいと語る。通称カズさん。神戸の中にあつて女流作家や若い作家たちのお姉さんの存在の彼女は、作品にあふれる豊かな情感をそっくり心にももった素敵な女性である。スリムで知的なカズさんは自己PRの下手な人だが、その分蓄えられた実力と人間的魅力がいっぱいだ。来年はミュンヘン市美術館での個展も決定、彼女の才能が花開く時のようだ。ご主人は画家の奥田善巳氏。トアロードの坂の上に住む。



## 日本の女の情念を踊る

加藤きよ子

(モダンダンサー)

藤原保之

カメラ

踊ることが好きで踊るために生まれてきた人——という形容が加藤きよ子さんには最も相応しい。福岡で小学生のとき友だちに誘われ何げなく故早川美加さんの門下になったのがモダンダンスを踊るきっかけとなり、その後鶴田舞踊学校で舞踊全般の基礎を学んだ。

「小柄な体を最大限に生かして表現できるモダンダンスを志す」ことを決意して昭和35年神戸の今岡頌子舞踊団に入団。恩師今岡さんを始めモダンダンスの最高峰とされる庄司裕氏（在東京）の指導も得て「踊る」こと一筋に歩んできた。

「浄瑠璃、笛など日本の音というものに対して、すごく燃え、すつと溶け込んでいける感じ。特に文楽の世界の妖しい魅力にはひかれます。日本の娘が持つている激しさ、やさしさなどの心情を踊ることで表現していきたい。何よりもいい感覚のスタッフの方に恵まれてとても幸せ、受賞を機に心新たに頑張ります」。

第1回（昭和53年）、第2回（昨年）リサイタルで女の情念を新鮮な感覚でエネルギーに踊った。特に浄瑠璃を現代に融合した「お七」「清姫」は迫真の舞台、と評価が高く、豊かな才能、旺盛な意欲の「きよちゃん」への期待は大きい。また子供たちに「夢と踊る楽しさ」を感じさせる企画・指導には定評がある。

(今岡舞踊団レッスン場にて)





●'82ブルーメール賞

ファッション部門受賞者

## 命を造る花に宿す

太田タマコ（タマコオリジナル  
スタジオ主宰）

カメラ  
米田定蔵

関西学院大学の文学部美学科の学生だった頃、絵画クラブ、新月会に在籍し、具体美術の古原英雄氏ら先輩から大きな影響を受けている。前へ進もうという具体の姿勢に共鳴を感じた。同時にアートフラワーを習い始め、十五年前、造花の本質を目指す人を集めて独立、タマコオリジナルフラワースタジオを芦屋に創って活動を始めた。

十一年前、コンクリートの芦屋ルナホールを見て、部屋を飾るための花造りではなく、本来のクリエイティブな面が発揮された。岸田今日子の詩の朗読と大きな造花達が舞台で共演した。そして十年間の蓄積を経て昨年六月二十日にルナホールで造花とヨネヤママコのパントマイムの舞台「魔恋想」が大成を収めた。マコの妖気が造られた花に宿って、女の情念が表現され、ママコにも、自分の生きざまを花に託した彼女にも妥協のない満足感が残った。

インテリアフラワー作家にとどまらぬクリエイターの姿勢がファッション部門で高く評価された。三月十三、十四日には、芦屋ルナホール自主制作公演で「王女メディア」が催され、舞台衣裳を手がけている。感性を失わず、造り続けること、だと思えます。今度は造花だけの舞台をやってみたい」と静かな口調にも情熱が伺える。

（スタジオで）



ありがとうございました。

## 国鉄三ノ宮駅にデビューして1周年！

これからも快適にお過ごしいただけますよう努力してまいります。



sh

●本場フランスの味と香りを——

### 4階・シャンテ・グレル

メインダイニングルーム

三宮ターミナルホテル

●神戸っ子お気に入りの味のプロムナード

### 11階・スカイレストラン街

スエヒロ三宮店 / 四海飯店 / 北浜

KYK / ベル / ゴンチャロフ

神戸市中央区雲井通8丁目 国鉄  
三ノ宮駅構内 ☎(078)291-0001





●コウベスナップ

## '82国際親善パーティに50カ国が集う

'82年の国際親善パーティは、ポートピア'81の成功と、ユニバーシアード'85開催決定、そして四選と大当りの宮崎辰雄市長の主催で、1月13日相楽園会館に約50カ国の人々が集った。坂井時忠知事、中井一夫元市長、石井一衆議院議員などの他に、豪洲、ボリビア、中国、ドイツ、インド、米国、スイス、フィンランド、フランス、大韓民国、フィリピン、ポルトガル、パキスタン、デンマークなどの領事が出席、なごやかな雰囲気のパティで国際港都の春を祝った。

# エトランゼの輪郭 1

## 中西 勝

大阪に生まれる 1967～70 / メキシコ・トルコ・モロッコ・ギリシャ・グアテマラ等の僻地を探訪及びアメリカ・全ヨーロッパを旅す。1972 / 第15回安井賞受賞、二紀会文部大臣賞受賞 1973 / モロッコ、中近東外遊、現・二紀会理事

### 遙かな国のインディオたち

かつて四年半の歳月をかけて27か国の異国を旅した。もともと土器や骨董品が好きで、土器を使い大地とともに生活している人々に興味を持ち異質な美学に接したいと思っていた。

とりわけメキシコ、モロッコの僻地や砂漠地帯で暮している土にまみれたインディオたちに深い感銘を覚え、ルネサンスの大家たちが描いた典型的な美しさとは異なった、人間性から生まれる美しさを彼らに感じた。

ルネサンス頃から絵画がヒューマンなものから離れて独自の方向性を持って行くのに逆らって、美人でもないごく一般的なインディオの母子像を描き続けてきた。単なる装飾的な造形美でなく、土俗的な生活感を漂わせてみたいと思い、そこに新しい美学が発見できるのではないのかとも思う。

辿ってきた歴史、人生観、将来をも含めた社会観を総括したような生活の匂いがぷんぷん漂う人間像が描けることを願っている。



モデル / ジュリエット・ルーベンソンさん(オーストラリア人)〈中央〉





「赤いマフラーの娘」  
P10